414
A 36
1

陳情書

不肖 禎事

誠恐誠惶書ヲ首相閣下ニ呈ス畏レ多クモ吾ガ
皇室ニ對スル軍事上要塞信濃離宮御新設請願書別冊
之通其筋ヘ上願中ニ有之候間御参考トシテ請願書一部
奉呈ス抑長野縣信濃ノ地勢タルヤ帝國三千方里ノ中点ニ位
シ四囲山岳ヲ擁シ海岸ヲ隔ツル最モ遠ク天府四塞ニシテ
所謂金城鉄壁自然ノ山城ニシテ一朝有事ノ日ニ当テハ大
纛ヲ置クヘキ地位ト史ヲ繙キ図ニ徴シテ確信仕候間特別之
御詮議ヲ以テ上ハ　宮廷ノ御為下ハ四千万同胞ノ寧キ
ヲ保ツヘキ大計ニ可有之不肖禎事等多年勤王ノ微衷
御賢察之上要路ノ諸公ト御稟議アリテ御新設

大正十一年四月
大隈侯爵家寄贈

ノ榮ヲ賜ハリ度別冊請願寫相添ヘ此段奉陳情候也

明治三十一年十月十一日

東京市神田區猿樂町二丁目一番地寄留
長野縣平民戸主
主唱請願人　藤野禎事
安政三丙辰年七月生

伯爵大隈重信殿閣下

要塞離宮新設請願書

長野縣平民
東京神田區猿樂町二丁目一番地寓
主唱請願人　藤野禎事
安政三丙辰年七月生

414
A 36
2

早稻田大學圖書

要塞離宮新設請願書

謹テ奏ス臣等庸劣ニシテ僭越ヲ顧ミズ甞テ明治二十六年一月四日付ヲ以テ地方廳ヲ經由シ宮内大臣宛ニテ別冊寫之通軍防上離宮新設請願書奉呈仕候處當時帝國議會ノ結果製艦費否決ニ際會シ畏レ多クモ
帝室ヨリ年々製艦費ノ内ヘ御下賜金ノ故ヲ以テ新事業御中止ノ御内定ト謹テ拜承仕爾後何等ノ御沙汰ニ接セサル既ニ五閲年然ルニ其間甲午征清ノ事アルニ當テヤ吾ガ神聖ナル
天皇陛下ハ大纛ヲ廣島ニ進メラレ宵衣旰食六師ヲ統ヘサセ給フヤ奮闘一年ナラズシテ彼レハ地ヲ割キ和ヲ乞フニ至ル玆ニ御親征ノ威烈宇内萬邦ヲシテ風靡セシムルニ至レリ此レ全ク平時ニアリテ吾ガ
皇上偏ヘニ大御心ヲ軍事ニ用ヒ給フノ結果ニ外ナラズト乍恐奉

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

存候
却說戰後ノ經營トシテ陸海ノ軍備ヲ擴張セラレ各地ニ砲臺ヲ築キ軍器ヲ調ヘ鎭守府ヲ置キ軍艦ヲ製シ殊ニ要塞地ヲ御撰定アラセラルヽナド日ニ月ニ改善シ今ヤ吾ガ帝國ハ海國トシテ嶋國トシテ漸次不足ナキノ軍備トハナレリ然ルニ邊備既ニ整ヘドモ內地猶未ダ其全キヲ得ズ臣等謹ンテ按スルニ要塞離宮ノ御撰定ハ國防上必要ナル義ト乍恐奉存候伏シテ惟ルニ吾ガ信濃ノ地ハ帝國三千方里ノ中心ニシテ海岸ヲ隔ツル最モ遠ク四圍山岳重疊タル險崖絕壁ヲ擁シ天府四塞ニシテ境域十ケ國ニ跨リ所謂自然ノ城廓ニシテ皇國中他ニ其比ヲ看ズ然リ而シテ要塞離宮御新設ノ最適地ハ本縣南安曇郡ニ於ケル小倉官林ニシテ地盤平坦高燥ニシテ村落ヨリ一段高ク山水明媚頗ル風景ニ富メルノミナラズ風土氣候ニ至リテハ極寒三十五度極暑八十度寒暑共ニ凌キ易キハ諸外ハ人ト雖モ克ク知ル所恭シク惟ルニ此地ニ離宮御新設ノ榮アラバ平時ニアリテ避暑城トナシ軍國ニアリテハ要塞離宮トナスニ至リテハ所謂一擧兩全ノ策ト奉恐察候且ツ又信濃ノ地僻陬不便ナリト雖モ一二年ヲ出ズシテ中央連絡線ノ成ルヲ見ルベク十五聯隊ノ兵營ヲ置クヘク文化ノ氣脈ハ駸々乎トシテ日每ニ通スルヲ得ヘシ今ヤ四海鎭靜誠ニ離宮御新設ノ好時機ト奉恐察候

仰ギ願クハ此地ヲ相シ畏レ多クモ神聖英武ナル
天皇陛下ノ要塞離宮御新設被成下度地方臣民ノ輿望ヲ代表シテ奉請願候間何卒御採用ノ榮ヲ賜ハリ度別紙信濃全圖相添ヘ此段奉請願候也

明治三十一年十月十一日

平民戶主
首唱請願人
東京神田區猿樂町二丁目一番地寄留
長野縣信濃國南安曇郡梓村三十八番地
藤野禎事
安政三丙辰年七月生

内閣總理大臣伯爵大隈重信殿

長野縣信濃國南安[illegible]六十七番地

平民戸主

首唱請願人

目下原籍地ニアリ

地理大畧

一離宮新設適地　長野縣南安曇郡科布村字小倉官林地勢村落ヨリ一段高キニアリテ平坦ニシテ反別六百四十四町五反五畝拾武歩

一西ハ天険絶壁十帶ノ山脈槍高槍蝶浄念坊乗鞍等ノ諸岳ニシテ黒澤ノ城跡アリ

一南ハ御嶽山及ヒ木蘇ノ山道往古天武帝ノ披キシ箇所ニシテ源義仲公ノ古城アリ

一東ハ近ク梓川ヲ隔テヽ松本城ニ對シ東西筑摩南北安曇ノ四郡一望ノ間ニシ風景明媚且ツ保福寺嶺日奈倉嶺冠着山武石嶺等ノ諸険アリ遠クハ上田ヲ距テヽ淺間山碓氷ノ険諸峯ノ上ニ屹立シ往古日本武ノ尊東夷征討ノ古事アリ

一北ハ越後黒姫戸隠等ノ諸山アリ越後糸魚川ノ通樞ニシテ高瀬ノ大川ヲ隔テヽ仁科政盛ノ古城アリ又有明山ニ隣ス（一名ハ信濃富士ト言フ）

一中央小倉官林中ニ字室山ト稱スル突起セル岡陵アリ古老ノ傳フル所ニヨレハ往古從一位信濃公ノ古跡ニシテ夥多ノ珍寳ヲ埋藏セシ所ナリ或ハ然ランヤ其上頂ニアリテ瞥見スレハ南ニ遠ク芙蓉峯ヲ望ミ北ニ近ク須佐渡ノ岡陵及ヒ宮城ノ風景ヲ眺メ最モ絶佳ノ勝地ナルヲ以テ松本藩主代々遊園地トナセリ

一四隣村落ニハ小倉。御室。龍田。鳥羽。戸野。柏原。等ノ古村名アリテ畿内京邊ニ縁故アル名稱ヲ存ス

一正西ニ二條ノ瀑布アリ一ヲ北黒澤ノ瀑布ト云ヒ高サ二百有余尺一ヲ南黒澤ノ瀑布ト云フ其高サ三百尺ニシテ水性最清良ニテ他ニ此比ヲ見ス下流ヲ以テ飲用ニ供ス

一温泉場四ケ所アリ一ヲ白骨一ヲ中房一ヲ淺間一ヲ白糸等ノ四浴場ニシテ皇國中ニ最著名ナリ

一道程（東京ヨリハ五十五里　長野縣ヨリ十八里　諏訪ヨリ八里　上田ヨリ十五里　松本ヨリ二里半　木蘇ヨリ十五里）

一時候華氏寒暖計　極暑七十二三度　極寒二十七八度

一他國ノ輸出ノ土地ノ物産　五穀　繭　生糸　蠶種　桑苗等ナリ

一鑛脈　黒澤山ノ金銅　穂高岳ノ紫水晶　有明山ノ金剛石等ノ類ナリ

一信濃全國ハ皇國ノ中心ニシテ海岸ヲ隔ツル最モ遠ク四圍山岳ヲ擁シ所謂天府四塞ノ地ナリ

沿革

一穂高見命開國以來安曇連等數世ヲ經テ反キ王師田村麿ノ追討スル所トナル

一承久ノ亂後鳥羽上皇科布有明ノ里ニ行幸ス其當時ノ行在所今猶宮城ト稱ス

一承久ノ役仁科信濃ノ士民ヲ募リ大ニ賊軍ヲ敗リ以テ叡慮ヲ安ジ奉ル

一有明山かさしきの御製以テ其當時ヲ想像スルニ足ル

一宮城ノ地數多ノ塚アリ之ヲ堀ツテ金環曲玉古刀劔等ノ出ツルアリ之ヲ以テ公証スルニ足ル

離宮新設請願運動之顛末

一明治二十五年十月藤野禎事務臺量平等史ヲ繙キ地圖ヲ閲シテ軍事上要塞離宮御新設ノ議ヲ唱ヘ費ヲ投シ勞ヲ厭ハス一意專心内々請願ノ議内大臣徳大寺侯爵ヘ意見書ヲ以テ伺ヒ候處左ノ御指揮之本輸ヲ賜ハリタリ

（御輸）

拜啓

本月九日御發送ノ御書面拜見　離宮新設請願之義ハ當局宮内大臣ヘ御差出可然ト存シ候間爲念此段申上候也

候爵徳大寺實則

明治二十五年十一月　日

藤野禎事殿

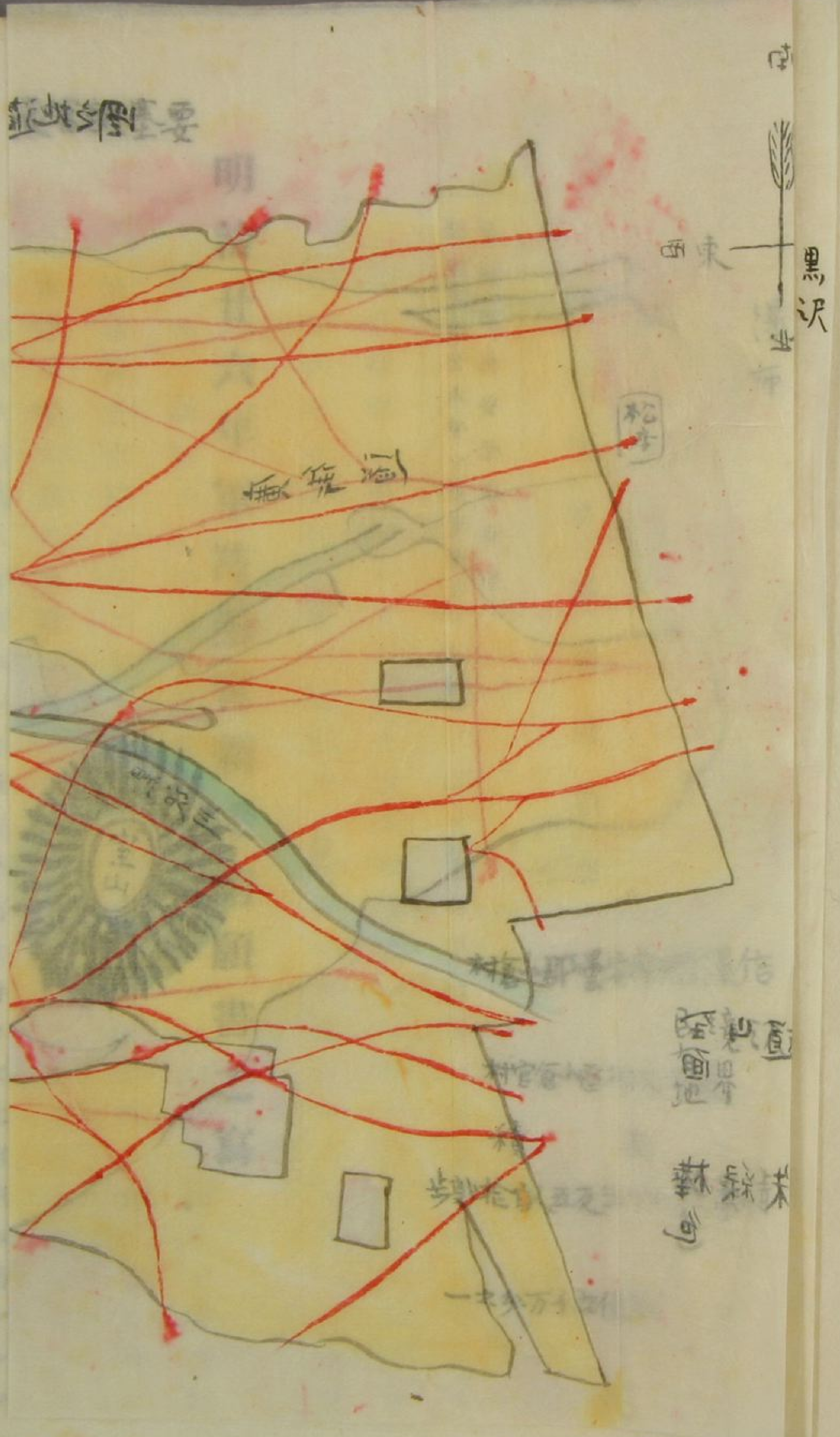
一則チ明治二十六年一月四日付ニテ淺田長野縣知事ヲ經由シテ宮内大臣ヘ奉呈ス

〔示來數通ノ意見書ヲ奉呈ス〕

一同年十月陳情ノ為メ藤野禎事上京宮内大臣ニ面謁ノ上軍事上要塞離宮ノ必要陳情シ且ツ設置ノ位地ニハ信濃ノ地勢ハ四圍山岳ノ重疊タルヲ擁シ海岸ヲ隔ツル最モ遠ク帝國中点ニ位シ所謂天府四塞金城鐵壁拔クベカラサル要塞ニシテ最適地タル事ヲ一々閲圖シテ陳情セリ

一土方宮内大臣ニハ地圖ニ就キ一々質問セラレ御了知アルモ帝國議會カ當時製艦費否決スルヲ以テ帝室費御下賜ノ事故四五年ノ後ヲ待タレヨト懇ロニ御説諭アルヲ以テ謹テ敬承シテ歸國ス勢ヒ中止スルニ至レリ

一明治二十七八年征清ノ事アルニ當リテモ軍事上要塞離宮ノ必要益々感シ國防上忽ニスヘカラザルニ付僭越ナガラ茲ニ多年ノ素願ヲ御採用アランコトヲ希望スル所リ



請願事務所扣

藤野祐事殿

一則チ明治二十六年一月四日付ニテ淺田長野縣知事ヲ經由シテ宮内大臣ヘ奉呈ス

（示來數通ノ意見書ヲ奉呈ス）

一同年十月陳情ノ爲メ藤野祐事[illegible]上京宮内大臣ニ面謁ノ上軍事上要塞離宮ノ必要陳情シ且ツ設置ノ位地ニハ信濃ノ地勢ハ四圍山岳ノ重疊タルヲ擁シ海岸ヲ隔ツル最モ遠ク帝國中点ニ位シ所謂天府四塞金城鐵壁拔クベカラサル要塞ニシテ最適地タル事ヲ一々閲圖シテ陳情セリ

一土方宮内大臣ニハ地圖ニ就キ一々質問セラレ御了知アルモ帝國議會カ當時製艦費否決スルヲ以テ帝室費御下賜ノ事故四五年ノ後ヲ待タレヨト懇ロニ御説諭アルヲ以テ謹テ敬承シテ歸國ス勢ヒ中止スルニ至レリ

一明治二十七八年征清ノ事アルニ當リテモ軍事上要塞離宮ノ必要益々感シ國防上忽エスヘカラザルニ付僭越ナガラ茲ニ多年ノ素願ヲ御採用アランコトヲ希望スル所リ

長野縣南安曇郡役所
經由明治廿六年一月十四日

明治廿六年軍防離宮新設請願書之寫

請願事務所扣

明治二十五年十一月　日

侯爵德大寺實則

離宮新設請願書

臣等俯シテ

惟ルニ凡ソ戰爭ニハ平時ノ事ヲ爲シ平時ニハ戰爭ノ事ヲ爲セトハ彼得帝ノ語辞ナリト雖モ古今東西之レニ據テ與リ之レニ反シテ亡フルニ歴史上屢々閲見スル所ニシテ掩フヘカラサルノ事實ナリトス

抑モ神聖ナル吾カ大日本帝國ハ環ヲスニ海洋ヲ以テシ岬灣出沒軍防上天然ノ便アリト雖氏世界各國龍驤虎視ノ間ニ立チ能ク其勢ヲ競ヒ能ク其衡ヲ爭ヒ以テ對等ノ威力ヲ發揚スルニ至リテハ防禦的準備ノ必要ナル臣等ノ管見ヲ待タズ上官夙ニ看アッテ既ニ海陸ノ兵士ヲ練磨シ年一年日一日ヨリモ實ニ旺ナルヲ致ス斯ノ如キハ臣民ノ共ニ祝賀スル所敢テ贅語ヲ要セサルナリ然リト雖モ彼ノ全地防禦局地防禦等ニ至リテハ未ダ完ク欽點ナシト

言フヲ得ズ之レ臣等多年憂慮措ク能ハサル所以宜シク御賢察ヲ
乞今ヤ吾カ大日本帝國ハ平穩無事宜シク邊備ヲ嚴ニシ内地ヲ警
メ以テ國家百年ノ大計ヲ畫スルノ一大好時機ト乍僭越奉存候
干玆吾カ信濃ノ地勢タルヤ帝國ノ中心ニシテ海岸ヲ隔ツル最モ
遠ク地盤最モ高燥四圍山岳ヲ擁シ所謂天府四塞就中本縣南安曇
郡科布村字小倉官林ハ平坦六百三十九丁五反五畝十貳歩ニシテ
四周村落ヲ距ツル貳拾餘丁殊ニ此地ヤ一段高クシテ恰モ平面ノ
盤石ヲ卓上ニ据ヘタルガ如シ（原野接續數里ニ渉ル）其中央ニ突起セル室山ハ
恰モ盤上ニ寶玉ヲ置ケルカ如シ然リ而シテ西ハ天險絶壁一帶ノ
山脈ヲ負ヒ東梓川ノ激湍ヲ擁シ北高瀬川ノ奔流ヲ控ヘ南西牧ノ
古城ヲ携ヘタル等ノ有樣自然ノ山城ニシテ軍事上要害ノ堅固ナ
ル皇國中其比ヲ見ス之レ臣等謹テ離宮御新設ノ最適地ト乍恐確
信仕候

却說此地ヲ相シ忝クモ吾カ叡聖文武ナル　天皇陛下ノ離宮ヲ新
設セラルヽノ榮ヲ得バ啻ニ軍事上要塞ヲ得ルノミナラズ平時ニ
アッテハ避暑城トナシ戰時ニアッテハ金城鉄壁行在所トナス所
謂一擧兩得ノ計策萬一事アルニ當ッテ恬然自若平素ノ如ク上
皇帝陛下ノ宸襟ヲ安ンシ奉リ下億兆ノ蒼生安寧ヲ保チ　寶祚悠
久天壤無窮ノ策此ニ至リテ始メテ局地防禦ノ其全キヲ得彼得ノ
所謂平時ニアリテ軍國防禦ノ策ヲ講スル所以ニ該當可致ト確信
仕候臣等獻芹ノ微衷御賢察ノ上何卒實地御見分アリテ吾カ叡聖
文武　皇帝陛下ノ離宮御新設御採用被成下候樣何分御指令相成
度別紙地誌並圖面相添ヘ此段奉請願候也

明治二十六年一月四日

長野縣信濃國南安曇郡梓村三拾八番地原籍
仝縣仝國仝郡温村六十三番地寄留
平民農戸主　藤野禎事 印
三十六年六ヶ月

長野縣信濃國南安曇郡温村六十七番地

平民農戸主　務　臺　量　平㊞

三十五年二ヶ月

南安曇郡温村長　務臺茂十太㊞

南安曇郡科布村長　丸山鍬八㊞

南安曇郡長　連印

宮内大臣子爵土方久元殿

、、、、、、、、也

年　月　日

長野縣知事奥印

官印